

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

担当小委員会	第 59/61/116 小委員会
事務局	一般社団法人日本電機工業会 (原案作成：日本規格協会)

### <規格情報>

規格番号（発行年）	JIS C 9335-2-29（2019）
対応国際規格番号（版）	IEC 60335-2-29（第 5 版(2016)）
規格タイトル	家庭用及びこれに類する電気機器の安全性—第 2-29 部：バッテリーチャージャの個別要求事項
適用範囲に含まれる主な電気用品名	直流電源装置
廃止する基準及び有効期間	J60335-2-29（H27）、有効期間 3 年間

### <審議中に問題となったこと>

審議中に問題になった主な事項は、次のとおり。

#### a) 適用範囲（箇条 1）

- 1) “リップルフリー”とは、一般的な用語か、また、箇条 3（用語及び定義）で定義する必要があるか、について審議した結果、この業界では、一般的な用語であり問題ないと判断したが、“リップルフリー”の説明は、3.4.3（安全絶縁変圧器）の注記に説明があり、箇条 1 にも必要と判断し、注記で追加することとした。しかし、内容は意識した。
- 2) 対応国際規格を直訳した場合、“JIS C 9335 規格群の適用範囲外の機器に使用する家庭用最終機器の中の電池…”となるが、わかりにくいため、審議した結果、JIS C 9335 規格群の適用範囲以外の機器で用いるバッテリーチャージャについては、家庭環境で充電する場合は、この規格を用いてもよいと規定しているため、“一般家庭の環境下で、JIS C 9335 規格群の適用範囲に入らない機器と一体になって電池…”とした。

#### b) 本体への表示要求（7.1）

- 1) 第 2 ダッシュの“ただし、”からの文章について、わかりにくいため、審議した結果、紛らわしい表示を近傍にすることを規制していると判断し、“ただし、この表示の近傍には、他の出力電流を表示してはならない。”とした。
- 2) 第 3 ダッシュの“直流分電盤を用いるバッテリーチャージャについては、”は、このようなバッテリーチャージャがイメージできないため、この規定文の書き方について審議した結果、“保護装置の定格電流（A）。直流分電盤の中に保護装置を組み込む場合。”とした。

#### c) 取扱説明書への記載要求（7.12）

第 2 ダッシュに“警告：非再充電形バッテリーは充電しない。”とあるが、“非再充電形バッテリー”が分かりにくく、原文と合っていないため、審議した結果、“充電式でない電池は、充電してはならない。”とした。

#### d) 温度試験での供給電圧（11.5）

対応国際規格では、“バッテリーチャージャには、定格電圧の 1.06 倍の電圧だけを供給する。”としているが、市場では、定格電圧範囲をもち、定格電圧の下限値が最悪状態とな

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

るものも存在する。現在、この要求事項を削除することがTC61に提案されており、国内委員会でも賛成投票した。審議した結果、この提案を先取りし規定しない旨とした。

- e) **バッテリーチャージャの機械的強度 (21.101)** 第3段落について、JIS C 9335の規格群で統一する方向で進めていたが、表現が重複しているとの意見があり、審議した結果、“バッテリーチャージャに損傷が生じてはならない。適否は、目視検査によって判定する。疑義がある場合は、8.1, 15.1.1, 16.3及び箇条29の一つ又は複数によって判定する。”とした(21.102も同じ)。
- f) **機器に用いる電源コード (25.7)** 今回の改正で、天然ゴム製の電源コードを禁止する対象が“自動車用”から“車両用”に変更となったが、電動自転車用の充電器のように、屋外での充電を意図しないものは適用しなくてもよいと判断し、審議した結果、“屋内用を意図したバッテリーチャージャを除き、”を追加した。
- g) **機器の材料グループ及び汚染度 (29.2)** 対応国際規格を直訳した場合、“汚染にさらされる可能性がある位置にあるか、又はそのように囲っている場合、”となるが、不明瞭であったため、審議した結果、“屋外用を意図したバッテリーチャージャは、汚損度3を適用する。ただし、通常使用中、絶縁が汚損にさらされないように配置されているか又は囲われている場合を除く。”とした。

### <主な国際規格との差異の概要とその理由>

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主なデビエーション。

項目番号	概 要	理 由
7.1	— 定格直流出力電流 (A)。ただし、この表示の近傍には、他の出力電流を表示してはならない。 (下線部追加)	表示を禁止する範囲が明確でなかったため、“この表示の近傍には、”を追加した。 バッテリーチャージャの使用者への理解を明確にした。
11.5	11.5 (対応国際規格の細分箇条を、この規格では適用せず、JIS C 9335-1 の 11.5 を適用する。) (下線部変更)	IEC 規格は、定格電圧の 1.06 倍だけ行うとしているが、この規定事項を削除し、JIS C9335-1 の規格を採用した。 IEC 規格の修正案を先取りした。
25.7	ただし、天然ゴムの電源コードは、屋内用を意図したバッテリーチャージャを除き、車両用バッテリーを充電するためのバッテリーチャージャに用いてはならない。 (下線部追加)	天然ゴムの電源コードの使用規定について、屋内用の車両用バッテリーチャージャを除外した。

### <主な改正点>

主な改正点は、次のとおり。

- a) **安全絶縁変圧器の定義 (3.4.3)** 対応国際規格を直訳した場合、“入力巻線を二重絶縁…によって、出力巻線から電氣的に分離…”となるが、分かりにくいいため、“入力巻線と出力巻線とを二重絶縁…によって、

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

電氣的に分離…”とした。

- b) **取扱説明書への記載要求 (7.12)** 対応国際規格を直訳した場合、第3ダッシュは“通気式鉛蓄電池”となるが、一般的でなく、鉛蓄電池以外も想定することが確認できたため、“ベント形蓄電池用”とした。
- c) **無負荷直流出力電圧 (10.101)** 旧規格において、“ただし”書きで追加されているデビエーションの要否について、今回の改正で出力電圧が“120 V”に変更になり、不要と判断したためデビエーションを削除した。
- d) **プラグ、コンセント、コネクタ及び機器用インレットの互換性 (24.4)** この細分箇条で用いている用語を、JIS C 8283-1（家庭用及びこれに類する用途の機器用カプラ）に合わせた。

## 技術基準との整合確認書

<技術基準省令への整合性>

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第 二 条 第 1 項	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 4	箇条 4 一般要求事項（JIS C 9335-1（以下、第 1 部）の箇条 4 による。）	
第 二 条 第 2 項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	■該当 □非該当	箇条 22 22.101  22.102	箇条 22 構造（第 1 部の箇条 22 による。） 22.101 直流分電盤から給電する各回路には、過負荷保護装置を組み込まなければならない。 22.102 トレーラハウス及び類似の車両の中に据え付けるバッテリーチャージャは、支持台に確実に固定できる構造でなければならない。	
第 三 条 第 1 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	■該当 □非該当	箇条 19 19.101  19.102 19.103  箇条 22 22.101	箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 19.101 通常動作の下で働く制御装置の短絡試験の追加 19.102 バッテリーの逆接続試験の追加 19.103 直流分電盤と組み合わせたバッテリーチャージャの過電流試験の追加 箇条 22 構造 22.101 直流分電盤から給電する各回路には、過負荷保護装置を組み込まなければならない。	
第 三 条 第 2 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当	■該当 □非該当	箇条 7	箇条 7 表示、及び取扱説明又は据付説明（7.14 及び 7.15 を除き、全細分箇条を含む。）	

## 技術基準との整合確認書

		該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。		7.1  7.12  附属書 AA 7.12	7.1 機器には、次の表示を行わなければならない。 ー 出力が 20 VA 以上であり、かつ、鉛蓄電池用バッテリーチャージャの場合、次の表示 ・“警告—爆発性ガスあり。火炎及び火花の禁止。充電中、十分な換気を行う。”  7.12 取扱説明書には、次の趣旨を記載しなければならない。 ー ベント形蓄電池用バッテリーチャージャの場合： バッテリーを充電中、十分に換気できる場所に置かなければならない。  附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ 7.12 取扱説明書には、次の趣旨を記載しなければならない。 ー 注意：8 歳以上の子供だけに、バッテリーチャージャの使用を認める。子供がバッテリーチャージャを安全な方法で用いるように十分な指示を与え、また、これが玩具ではなく、これで遊んではならないことを説明する。 ー 破裂の危険があるため、非充電式の電池を再充電しないように子供に指導する。 ー バッテリーチャージャの損傷について、特に、コード、プラグ及び外郭を定期的に検査する。バッテリーチャージャが損傷を受けた場合、修理するまで、使用してはならない。	
第四条	供用期間中にお	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間	■該当	箇条 19	箇条 19 異常運転(第 1 部の 19.11 (電子回路の故障),	

## 技術基準との整合確認書

	ける安全機能の維持	中、安全機能が維持される構造であるものとする。	<input type="checkbox"/> 非該当	19.12 箇条 24  箇条 25 25.14  箇条 28	19.12 (ヒューズの特性) による。 箇条 24 部品 (第 1 部の 24.1.4 (自動制御装置の耐久性), 24.1.8 (温度ヒューズの規定) による。) 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード 25.14 電源コードの折り曲げ耐久 (第 1 部の 25.14 による。) 箇条 28 ねじ及び接続 (第 1 部の箇条 28 による。)	
第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 1   箇条 6 6.2  箇条 7 7.1   7.12   7.12.1	箇条 1 適用範囲 この規格では、住宅の中及び周囲で、バッテリーチャージャに起因して人が遭遇する共通的な危険性を可能な限り取り扱う。 箇条 6 分類 6.2 屋外用のバッテリーチャージャは、水の有害な侵入に対して、IPX4 以上でなければならない。 箇条 7 表示、及び取扱説明又は据付説明 7.1 機器には、次の表示を行わなければならない。 ー 出力が 20 VA 以上の場合、次の表示 ・“屋内用” 又は“雨にさらしてはならない。” ただし、バッテリーチャージャが、IPX4 以上の場合は除く。 7.12 取扱説明書には、次の趣旨を記載しなければならない。 ー ベント形蓄電池用バッテリーチャージャの場合： バッテリーを充電中、十分に換気できる場所に置かなければならない。 7.12.1 トレーラハウス及び類似の車両の中に据え付	

## 技術基準との整合確認書

				<p>箇条 22 22.102</p> <p>附属書 AA</p>	<p>けるためのバッテリーチャージャの取扱説明書には、国の内線（配線）規程によって、主電源に接続することを記載しなければならない。</p> <p>箇条 22 構造</p> <p>22.102 トレーラハウス及び類似の車両の中に据え付けるバッテリーチャージャは、支持台に確実に固定できる構造でなければならない。</p> <p>附属書 AA 子供が用いるバッテリーチャージャ（全ての細分箇条を含む）</p> <p>8 歳以上の子供が監視のない状態で用いることを意図したバッテリーチャージャについて規定している。</p>	
第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<p>■該当</p> <p>□非該当</p>	<p>箇条 24</p> <p>箇条 25 25.7</p> <p>箇条 29 29.2</p> <p>箇条 30 30.1</p>	<p>箇条 24 部品（第 1 部の箇条 24 による。）</p> <p>箇条 25 電源接続及び外部可とうコード</p> <p>25.7 ただし、天然ゴムの電源コードは、屋内用を意図したバッテリーチャージャを除き、車両用バッテリーを充電するためのバッテリーチャージャに用いてはならない。</p> <p>箇条 29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁</p> <p>29.2 屋外用を意図したバッテリーチャージャは、汚損度 3 を適用する。ただし、通常使用中、絶縁が汚損にさらされないように配置されているか又は囲われている場合を除く。</p> <p>箇条 30 耐熱性及び耐火性</p> <p>30.1 耐熱性（第 1 部の 30.1 による。）</p>	
第七 条	感電に対する保	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電	■該当	箇条 8	箇条 8 充電部への接近に対する保護（第 1 部の箇条	

## 技術基準との整合確認書

第1項	護	<p>のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。</p> <p>一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。</p>	<input type="checkbox"/> 非該当	<p>8.1</p> <p>箇条 13</p> <p>13.3</p> <p>箇条 16</p> <p>16.3</p> <p>箇条 22</p> <p>22.5</p> <p>箇条 23</p> <p>箇条 27</p> <p>附属書 AA</p> <p>8.1.1</p> <p>10.101</p>	<p>8 による。)</p> <p>8.1 42.4 V を超える出力電圧をもつバッテリーチャージャは、バッテリーの取付け又は取外しの間、バッテリー又はバッテリーチャージャの充電部との接触について、確実に保護しなければならない。</p> <p>箇条 13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧</p> <p>13.3 耐電圧 (第1部の 13.3 による。)</p> <p>箇条 16 漏えい電流及び耐電圧</p> <p>16.3 耐湿後の耐電圧 (第1部の 16.3 による。)</p> <p>箇条 22 構造</p> <p>22.5 コンデンサの残留電荷による感電危険の防止 (第1部の 22.5 による。)</p> <p>箇条 23 内部配線 (第1部の箇条 23 による。)</p> <p>箇条 27 接地接続の手段 (第1部の箇条 27 による。)</p> <p>附属書 AA こどもが用いるバッテリーチャージャ</p> <p>8.1.1 外郭の部品を取り外すために工具を用いた後であつても、充電部又は基礎絶縁だけで充電部から分離した金属部分への接近が可能であつてはならない。</p> <p>10.101 出力電圧は、42.4 V ピークを超えてはならない。</p>	
第七 条第2項	感電に対する保護	<p>二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 該当  <input type="checkbox"/> 非該当	<p>箇条 13</p> <p>13.2</p> <p>箇条 16</p> <p>16.2</p>	<p>箇条 13 動作温度での漏えい電流及び耐電圧</p> <p>13.2 動作温度での漏えい電流 (第1部の 13.2 による。)</p> <p>箇条 16 漏えい電流及び耐電圧</p> <p>16.2 耐湿後の漏えい電流 (第1部の 16.2 による。)</p>	



## 技術基準との整合確認書

第八条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11 箇条 14 箇条 15 箇条 26 箇条 29	箇条 11 温度上昇（第 1 部の箇条 11 による。） 箇条 14 過渡過電圧（第 1 部の箇条 14 による。） 箇条 15 耐湿性等（第 1 部の箇条 15 による。） 箇条 26 外部導体用端子（第 1 部の箇条 26 による。） 箇条 29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁（第 1 部の箇条 29 による。）	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11 箇条 17  箇条 19 箇条 30 30.2	箇条 11 温度上昇（第 1 部の箇条 11 による。） 箇条 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護（第 1 部の箇条 17 による。） 箇条 19 異常運転（第 1 部の箇条 19 による。） 箇条 30 耐熱性及び耐火性 30.2 耐火性（第 1 部の 30.2 による。）	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11 附属書 AA  11.8	箇条 11 温度上昇（第 1 部の箇条 11 による。） 附属書 AA こどもが用いるバッテリーチャージャ 11.8 JIS C 0922 に規定する検査プローブ 18 が接触するバッテリー表面の温度上昇は、25 K を超えてはならない。 JIS C 0922 に規定する検査プローブ 18 が接触する他の表面の温度上昇は、次の値を超えてはならない。 ー 金属の場合、25 K ー その他の材料の場合、35 K	
第 十 一 条第 1 項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 20  箇条 22  22.14	箇条 20 安定性及び機械的危険（第 1 部の箇条 20 による。） 箇条 22 構造 22.14 （第 1 部の 22.14 による。）	

## 技術基準との整合確認書

		る。				
第 十 一 条第2項	機械的危険源に よる危害の防止	2 電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的 作用によって生じる危険源によって人体に危害を及 ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、 必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるも のとする。	■該当  □非該当	箇条 19  19.13   箇条 21 21.101   21.102   箇条 22 22.11  附属書 AA 21.201	箇条 19 異常状態  19.13 異常状態適用後、バッテリーは、破裂してはなら ない。  箇条 21 機械的強度（第 1 部の箇条 21 による。） 21.101 質量 5 kg 以下の埋込形以外のバッテリーチャ ージャは、高さ 1 m~落下後、バッテリーチャージャに損傷 が生じてはならない。  21.102 トレーラハウス及び類似の車両の中に据え付 けるバッテリーチャージャは、それらに加わるおそれが ある振動に耐えなければならない。  箇条 22 構造 22.11 充電部、湿気又は運動部への接触に対する保護 のための着脱できない部分（第 1 部の 22.11 による。） 附属書 AA 21.201 衝撃試験及び落下試験後、バッテリーチャ ージャには、損傷があつてはならない。特に、充電部が可 触になつてはならない。	
第 十 二 条	化学的危険源に よる危害又は損 傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出 し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、 又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当  □非該当	箇条 19 19.13  箇条 22 22.22   22.23	箇条 19 異常運転  19.13 異常試験の判定（第 1 部の 19.13 による。）  箇条 22 構造 22.22 アスベスト使用の禁止（第 1 部の 22.22 によ る。）  22.23 ポリ塩化ビフェニル（PCB）を含んだ油の使用 禁止（第 1 部の 22.23 による。）	

## 技術基準との整合確認書

				22.41  箇条 31 箇条 32	22.41 ランプを除き、水銀を含む部品の禁止（第1部の22.41による。）  箇条 31 耐腐食性（第1部の箇条 31による。） 箇条 32 放射線、毒性その他これに類する危険性（第1部の箇条 32による。）	
第 十 三 条	電気用品から発せられる電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	■該当 □非該当	箇条 32	箇条 32 放射線、毒性その他これに類する危険性（第1部の箇条 32による。）	
第 十 四 条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	■該当 □非該当	箇条 19 19.7 箇条 22 22.49～22.51  箇条 30 30.2.3	箇条 19 異常運転  19.7 （第1部の19.7 モータ拘束試験による。） 箇条 22 構造  22.49～22.51 遠隔操作に対する規定（第1部の22.49～22.51による。）  箇条 30 耐熱性及び耐火性 30.2.3 人の注意が行き届かない状態で動作する機器の耐火性試験（第1部の30.2.3による。）	
第 十 五 条第1項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条 22 22.108	箇条 22 構造	
第 十 五 条第2項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	■該当 □非該当	箇条 20 20.2 箇条 22 22.10	箇条 20 安定性及び機械的危険 20.2 機器的危険（第1部の20.2による。）  箇条 22 構造  22.10 非自己復帰形制御装置の復帰ボタンに関する規定（第1部の箇条 22.10による。）	

## 技術基準との整合確認書

第十五条第3項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	—	急停止が危険にならない機器
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 10 10.102  箇条 17  箇条 19 19.12 箇条 25	箇条 10 入力及び電流（第1部の箇条 10 による。） 10.102 出力電流の算術平均値定格直流出力電流の $\pm 10\%$ を超えてはならない。  箇条 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護（第1部の箇条 17 による。）  箇条 19 異常運転 19.12 ヒューズの特性（第1部の 19.12 による。） 箇条 25 電源接続及び外部可とうコード（第1部の箇条 25 による。）	
第十七条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 19 19.11.4	箇条 19 異常運転 19.11.4 イミュニティ試験（第1部の 19.11.4 による。）	
第十八条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	—	この規格では規定しない。	家電機器に対する雑音の強さは、J55014 等の別規格で規定されている。
第十九条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 7 7.14	箇条 7 表示（第1部の箇条 7 による。） 7.14 表示の消えにくさ（第1部の 7.14 による。）	
第二十条	表示（長期使用	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほ	<input type="checkbox"/> 該当	—	—	長期仕様製品安

## 技術基準との整合確認書

条第1項	製品安全表示制度による表示)	<p>か、当該各号に定めるところによる。</p> <p>一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。）</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<p>■非該当</p>			全表示制度については、省令で明確に規定されているため、整合規格は不要。
第二十条第2項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示)	<p>二 電気冷房機（産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<p>□該当</p> <p>■非該当</p>	—	—	同上
第二十条第3項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示)	<p>三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。） 機</p>	<p>□該当</p> <p>■非該当</p>	—	—	同上

## 技術基準との整合確認書

		<p>器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>				
第二十条第4項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	<p>四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<p><input type="checkbox"/>該当</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>非該当</p>	—	—	同上